【2022年度保育科学研究】

総合テーマ：低年齢の保育と環境について

①２歳児の姿からみた乳幼児の保育の質を高める保育者と保護者の関係に関する研究（堀　昌浩）

②【指定研究】保育所等における午睡に関する研究（千葉　武夫）

※本研究は、保育科学研究所を通じてワタキューホールディングス株式会社から助成を受けた。

上記の２つの研究は、2022年度保育科学研究として承認され、最終報告が2023年度に提出された。

２歳児の姿からみた乳幼児の保育の質を高める保育者と保護者の関係に関する研究

〈研究代表者〉　堀　昌浩　（認定こども園さくら・園長）
〈共同研究者〉　柳澤　弘樹　（国際知的財産研究機構・主任研究員）
竹内　勝哉　（あそびの森あきわ・園長）
坂本　喜一郎　（RISSHO KID`S きらり岡本・園長）
井　量昭　（醒井保育園・園長）

研究の概要

この研究では、保護者と保育者に対してアンケートを実施し、２歳児の保育における保護者と保育者の関わり方が、子どもの発達にどのように影響するのかを明らかにするとともに、結果を基に効果的な関わり方の指針を提案することを目的としている。

アンケートは、下記のとおり実施した。

【調査対象】

◯保育者向けアンケート：

保育園・幼稚園・認定こども園に在籍している１歳児クラス・２歳児クラスを担当している保育者、過去に担当したことがある保育者

◯保護者向けアンケート：

保育園・幼稚園・認定こども園・１歳児クラス・２歳児クラスに在籍している園児の保護者

【調査方法】インターネットデータベースフォームを活用し、データを回収。

【調査時期】2023年７月～11月

【回答結果】保育者向けアンケート：170件、保護者向けアンケート：349件

アンケートからは、保育者と保護者の間で子どもの成長、関わり方、コミュニケーションの質に関して様々な視点とアプローチがあることが分かった。両者は子どもの健全な成長と発達を目指しているが、役割や環境の違いから異なる方法で子どもたちに接していることが示されたと考える。

保育者は専門的な視点から子どもの社会的・認知的発達に重点を置き、一方で保護者は子どもの個々の興味や感情に密接に関わることを重視している。これにより、子どもの自立心や自発性、主体性の育成においても異なるアプローチが見られる事が示された。

保育者は環境設定や教具・教材の提供を通じて主体的な学びを促し、保護者は子どもの興味や感情を尊重し、自由度のある環境を提供することに重点を置いていることが示唆された。

保育者と保護者は、子どもの成長を支えるために、互いの違いを理解し、協力し合うことが重要だと考える。そして、子どもの健全な発達を促進するためには、保育者と保護者がそれぞれの強みを生かし、連携することが不可欠であることがこの研究からも分かった。

キーワード：２歳児を乳児の「完成形」と見なす視点、２歳児を「年長児に向かう過程」の最初、子ども主体の保育が自由放任に陥るリスク、保育者の過度な介入による子どもの主体性の阻害、保育者に新たな視点と保護者との関わり方を提案

Ⅰ．研究の目的と背景

①　本研究の社会的背景と経緯

平成30年９月、保育の質を巡る検討会（保育所等における保育の質の確保 ・向上に関する検討会、2018（平成30）年９月26日、厚生労働省）によって、保育の質に関する基本的な考え方や、具体的な捉え方・示し方を明確にする中間的な論点の整理が発表された。この検討会では、保育の質において重要な分岐点として議論され、主な意見として「保育の質の確保・向上を図る前提として、子どもを一人の人間として尊重するという子ども観に基づき、「子どもにとってどうか」という、子どもを中心に捉えた視点を関係者全員が共通して持つことが重要。」「子どもが主体的に周囲の環境に関わり、子ども同士が共通の目的実現を目指して工夫や協力を重ねていく協同的な学びの土台は、低年齢からの子どもの思いや興味を大切にした保育により培われる。また、保育の充実や改善には、子どもの声を聞くことも必要。」※1)「保育の質の確保 ・向上に関わる様々な取組が考えられるが、それらについても、その「質」をどのようにして担保するかが重要。取組の方向性が偏ったものになってしまったり、最新の知見や子ども・家庭の実情などから離れてしまったりすることのないよう、保育の質の確保・向上を図る前提として、保育所保育指針に示す保育の基本的な理念に基づいて、目指すべき方向性をしっかりと持つことが必要。」※2) などの意見が出された。

この中間的な論点の整理は、保育実践の創意工夫を促進するための指針として提供され、保育者と保護者が連携して乳幼児の保育の質を高める関係を築くことを目的としており、この報告は、保育の現場での実践者たちが念頭に置くべき方向性を検討し、それを実践に移すための重要なものとなると考えている。乳幼児期の保育は子どもの学びに向かう力の基盤を形成するため、さらにこの時期における保育の質は極めて重要であると考えている。

そこで、私たちは、本研究において、２歳児を乳児の「完成形」と見なす視点と、「年長児に向かう過程の最初」と見なす視点の間に、保護者や保育者のアプローチにおいて顕著な違いがあることがあるのではないかと推察した。この違いは、乳幼児に対する教育的介入の質に大きな影響を及ぼし、結果として子どもたちの発達にも異なる結果をもたらす可能性がある。それらを解消するために、家庭と園で一貫した認識を持ち、保育の質を向上させるための明確な方向性を考える。

②　問題提起と先行研究

問題提起

保育の質の向上は、子どもたちの発育と発達に不可欠な要素であり、その実現には保育者の創意工夫と保護者の理解が求められている。しかしながら、保育現場での実践は複雑であり、子ども主体の保育が自由放任に陥るリスクと、保育者の過度な介入による子どもの主体性の阻害という二つの課題に直面していると考える。このバランスを如何に取るかは、保育者にとって永遠のテーマであると思う。さらに、保育者の意図が優位な保育内容が子どもの主体性を抑え、創造的な遊びや対人関係の展開に悪影響を与えることも懸念されていると考える。

このような状況で、２歳児保育における保育者と保護者の具体的な関わり方が、子どもの発育と発達に及ぼす影響をとらえ、改善することが急務であると思う。特に、保護者と保育者が共有する保育に対する認識や価値観が、保育の質を左右する重要な要因であると考えられる。本研究では、これらの問題意識を踏まえ、保護者と保育者の理解度と実践の質が子どもの発育 ・発達に与える影響を明らかにし、保育者に新たな視点と保護者との関わり方を提案することを目的とする。

先行研究

私たちのこれまでの研究を通じて、保育園における子どもの活動量に関する３つの重要な発見があった。第１に、子どもの主体性を重んじた保育内容が提供された場合、子どもの活動量は顕著に増加する。※3) 第２に、保育者主導の活動であっても、運動遊び環境を創造的に工夫することで、豊かな身体活動を促すことが可能であることが示された。※4) 第３に、１日の保育において、子どもの主体性を重んじることが活動量に大きな変化をもたらし、子どもの意欲ややる気を引き出していること※5) を明らかにしてきた。

これらの発見にもかかわらず、実際の保育現場では、子ども主体の保育が自由放任に陥ったり、逆に保育者の不適切な介入が遊びの展開や子どもの対人関係を阻害してしまうという問題が指摘されている。このような現状は、保育の質の向上を妨げ、子どもたちの可能性を十分に引き出せないという課題を生んでいると考える。

本研究はこれらの問題点に対処し、２歳児の保育における保護者と保育者の関わり方が、子どもの発育と発達にどのように影響するかを明らかにするこ

とを目的としている。アンケート調査を用いて、保育の質を高めるための保護者と保育者の理解度とその実践方法を評価し、その結果をもとに、効果的な関わり方の指針を提案する。

Ⅱ．アンケート調査の概要

①　調査概要

このアンケートは「２歳児の姿からみた乳幼児の保育の質を高める保育者 ・保護者の関係に関する研究」に関するもので、保育科学研究所の助成を受けて行っている。この研究をとおして保護者と保育者の感じ方の違いについて聞いた。

【調査名】

保育者版：２歳児に関するアンケート・保護者版：２歳児に関するアンケート

【調査対象】

◯保育者向けアンケート：

保育園・幼稚園・認定こども園に在籍している１歳児クラス・２歳児クラスを担当している保育者、過去に担当したことがある保育者

◯保護者向けアンケート：

保育園 ・幼稚園 ・認定こども園 ・ １歳児クラス・２歳児クラスに在籍している園児保護者

【調査方法】

インターネットデータベースフォームを活用しデータを回収

【調査時期】

2023年７月～11月

【回答結果】

保育者向けアンケート：170　・　保護者向けアンケート：349

【調査内容】

◯保育者向けアンケート

【保育者版】2歳児に関するアンケート

こちらのアンケートは「2歳児の姿からみた乳幼児の保育の質を高める保育者・保護者の関係に関する研究」に関するもので、保育科学研究所の助成を受けて行っております。この研究をとおして保護者と保育者の感じ方の違いを明らかにすることで、保護者と保育者のコミュニケーションの質を向上するとともに、園での2歳児保育において、保育の質の向上になればと考えています。
アンケートの問いは10問あります。回答時間はおおむね10分程度となっておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
研究者
堀　昌浩（認定こども園さくら（栃木県栃木市））
竹内　勝哉（認定こども園あそびの森あきわ（長野県上田市））
坂本喜一郎（RISSHO KIDSきらり岡本（東京都世田谷区））
井 量昭（醍ヶ井保育園（滋賀県米原市））

代表連絡先：　（認定こども園さくら：堀まで）

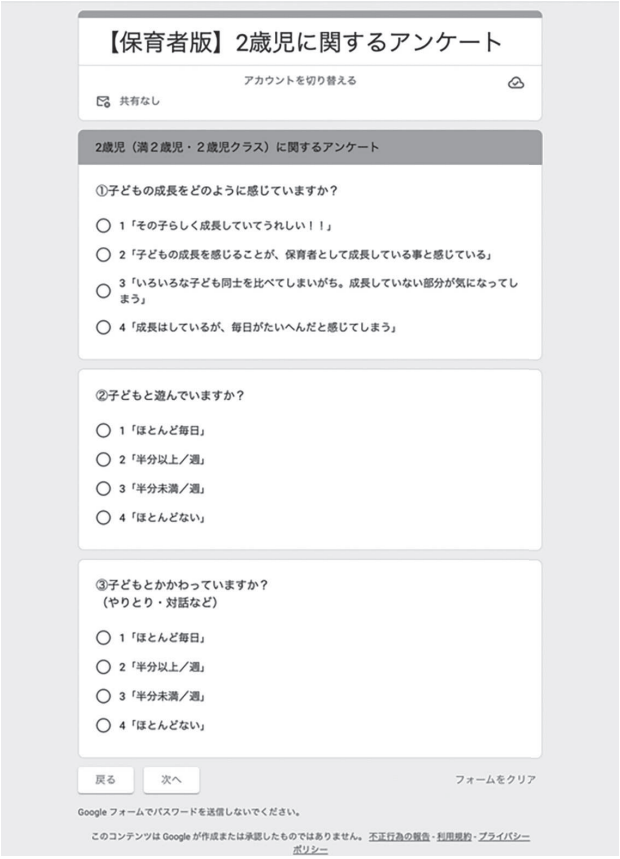
*数多くのご回答ありがとうございます。11/18（土）にアンケートを修了しました。

アカウントを切り替える
共有なし
* 必須の質問です

勤務年数 *
保育における勤続年数（現在の職場だけではなく、保育に従事しているトータルの勤続年数）を記述してください
回答を入力

2歳児担当年数
保育における2歳児担当年数（現在の職場だけではなく、保育に従事しているトータルの2歳児保育年数）を記述してください
回答を入力

次へ　フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー
Google フォーム


【保育者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える
共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

①子どもの成長をどのように感じていますか？
○ 1「その子らしく成長していてうれしい！」
○ 2「子どもの成長を感じることが、保育者として成長している事と感じている」
○ 3「いろいろな子ども同士を比べてしまいがち。成長していない部分が気になってしまう」
○ 4「成長はしているが、毎日がたいへんだと感じてしまう」

②子どもと遊んでいますか？
○ 1「ほとんど毎日」
○ 2「半分以上／週」
○ 3「半分未満／週」
○ 4「ほとんどない」

③子どもとかかわっていますか？
（やりとり・対話など）
○ 1「ほとんど毎日」
○ 2「半分以上／週」
○ 3「半分未満／週」
○ 4「ほとんどない」

戻る　次へ　フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

【保育者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える

共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

④子どもと一緒に遊ぶ際、どれくらいの頻度で子どもの意向を尊重しますか？

○ 1「ほとんど毎回子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」
○ 2「半分以上子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」
○ 3「半分未満子どもの気持ちを尊重している」
○ 4「ほとんど保育者が遊びを決めている」

⑤子どもが困難やトラブルに直面した際、どのタイミングでかかわりますか？

○ 1「できるだけ早く介入する（保護者に相談をする）」
○ 2「子どもとその事柄の話を多くする（子ども同士で解決するように促す）」
○ 3「大人同士で解決する（子どもに知られないように大人が解決する）」
○ 4「子どもとその事柄を話さない」

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム

【保育者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える

共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

⑧子どもの成長（主体性や自立心）の成長を感じる瞬間は何ですか？

回答を入力

⑨子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？

○ 1「子どもの興味や関心を観察する」
○ 2「子どもに意向を尋ねる」
○ 3「お友だち／兄弟姉妹の関係性の関係性から推察する」
○ その他:

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム

【保育者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える

共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

⑥子どもの自発的・主体的な行動や発言を奨励するためには、どのようなサポートや手だて・方法を使用しますか？

回答を入力

⑦子どもとコミュニケーションを取れたと感じる頻度はどれくらいありますか？

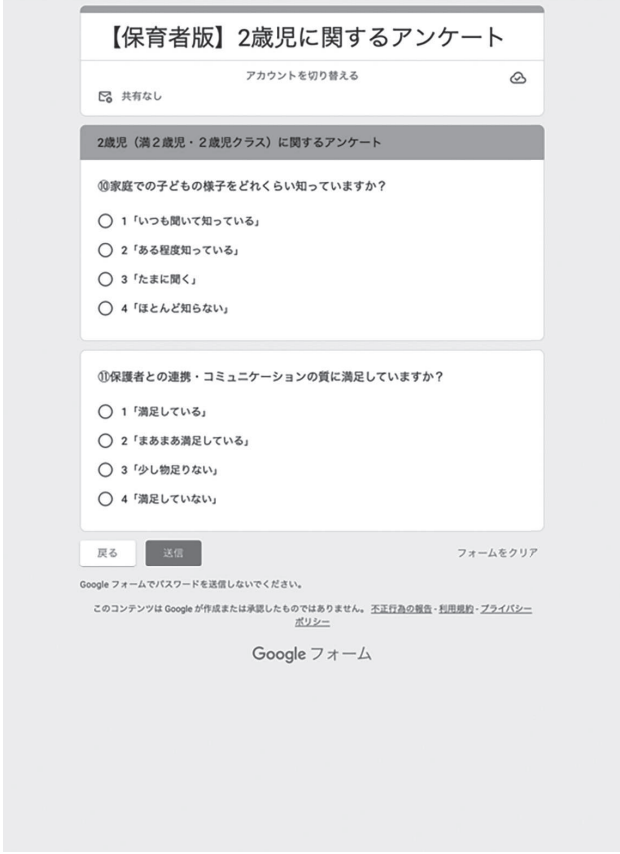
○ 1「ほとんど毎日
○ 2「週に数回」
○ 3「月に数回」
○ 4「ほとんどない」

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム


【保育者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える

共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

⑩家庭での子どもの様子をどれくらい知っていますか？

○ 1「いつも聞いて知っている」
○ 2「ある程度知っている」
○ 3「たまに聞く」
○ 4「ほとんど知らない」

⑪保護者との連携・コミュニケーションの質に満足していますか？

○ 1「満足している」
○ 2「まあまあ満足している」
○ 3「少し物足りない」
○ 4「満足していない」

戻る　送信　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム

○保護者向けアンケート

【保護者版】2歳児に関するアンケート

こちらのアンケートは「2歳児の姿からみた乳幼児の保育の質を高める保育者・保護者の関係に関する研究」に関するもので、保育科学研究所の助成を受けて行っております。この研究をとおして保護者と保育者の感じ方の違いを明らかにすることで、保護者と保育者のコミュニケーションの質を向上するとともに、園での2歳児保育において、保育の質の向上になればと考えています。
アンケートの問いは10問あります。回答時間はおおむね10分程度となっておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
研究者
堀　昌浩（認定こども園さくら（栃木県栃木市））
竹内　勝哉（認定こども園あそびの森あきわ（長野県上田市））
坂本喜一郎（RISSHO KIDSきらり岡本（東京都世田谷区））
井 量昭（醒ヶ井保育園（滋賀県米原市））

代表連絡先：　　（認定こども園さくら：堀まで）

*数多くのご回答ありがとうございます。11/18（土）にアンケートを修了しました。

アカウントを切り替える
共有なし
* 必須の質問です

回答者 *
回答者の続柄についてお答えください
○ 1「父」
○ 2「母」
○ その他:

お子さんについて①
お子さんについての情報をお答えください
○ 1「第1子」
○ 2「第2子以降」

お子さんについて②
お子さんの通っている年齢（クラス）をお答えください
○ 1「1歳児クラス」
○ 2「2歳児クラス」

次へ　フォームをクリア

【保護者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える
共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

④子どもと一緒に遊ぶ際、どれくらいの頻度で子どもの気持ちを尊重しますか？
お子さんとのかかわりについてお答えください
○ 1「ほとんど毎回子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」
○ 2「半分以上子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」
○ 3「半分未満子どもの気持ちを尊重している」
○ 4「ほとんど大人の都合で遊びを決めている」

⑤子どもが困難やトラブルに直面した際、どのタイミングでかかわりますか？
お子さんがこの状況になった場合の回答者の最初の対応をお答えください
○ 1「できるだけ早く介入する（保育者に相談をする）」
○ 2「子どもとその事柄の話を多くする（子ども同士で解決するように促す）」
○ 3「大人同士で解決する（子どもに知られないように大人が解決する）」
○ 4「子どもとその事柄を話さない」

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム

【保護者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える
共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

①子どもの成長をどのように感じていますか？
お子さんとのかかわりについてお答えください
○ 1「わが子らしく成長していてうれしい！」
○ 2「子どもの成長を感じることが、保護者として成長している事と感じている」
○ 3「いろいろな子ども同士を比べてしまいがち。成長していない部分が気になってしまう」
○ 4「成長はしているが、毎日がたいへんだと感じてしまう」

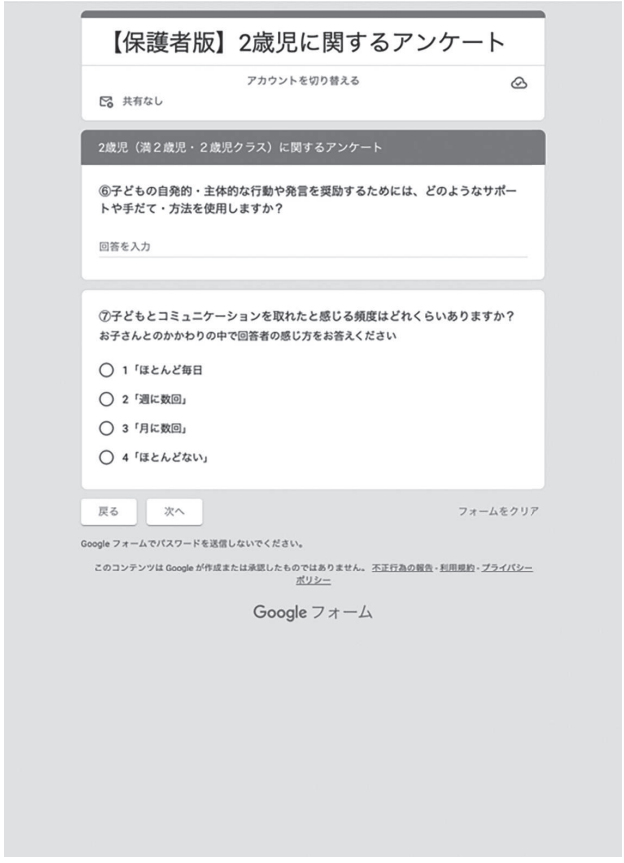
②子どもと遊んでいますか？
お子さんとのかかわりについてお答えください
○ 1「ほとんど毎日」
○ 2「半分以上／週」
○ 3「半分未満／週」
○ 4「ほとんどない」

③子どもとかかわっていますか？
（やりとり・対話など）
お子さんとのかかわりについてお答えください
○ 1「ほとんど毎日」
○ 2「半分以上／週」
○ 3「半分未満／週」
○ 4「ほとんどない」

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー



【保護者版】2歳児に関するアンケート

アカウントを切り替える
共有なし

2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート

⑥子どもの自発的・主体的な行動や発言を奨励するためには、どのようなサポートや手だて・方法を使用しますか？

回答を入力

⑦子どもとコミュニケーションを取れたと感じる頻度はどれくらいありますか？
お子さんとのかかわりの中で回答者の感じ方をお答えください
○ 1「ほとんど毎日
○ 2「週に数回」
○ 3「月に数回」
○ 4「ほとんどない」

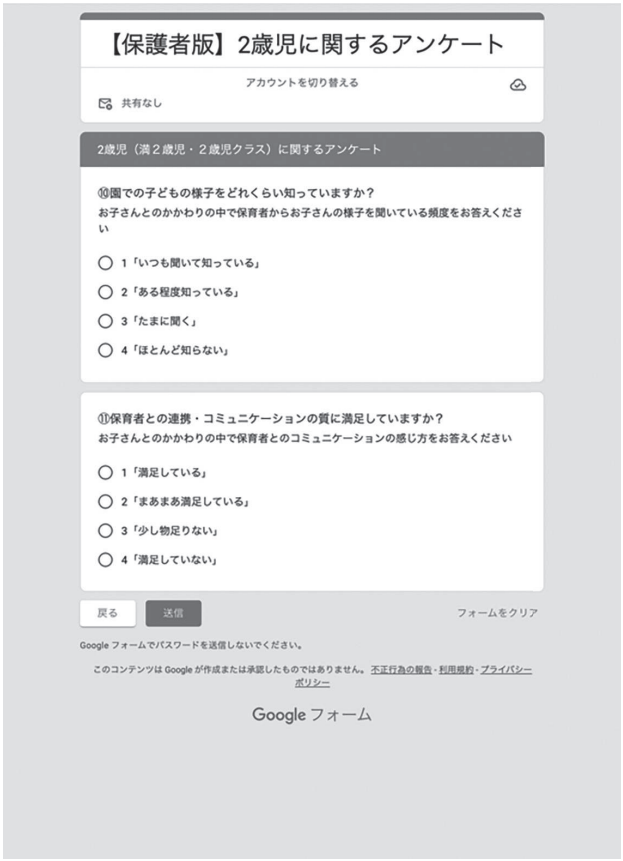
戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシー ポリシー

Google フォーム

【保護者版】2歳児に関するアンケート
アカウントを切り替える
共有なし
2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート
⑧子どもの成長（主体性や自立心）の成長を感じる瞬間は何ですか？
回答を入力
⑨子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？
お子さんとのかかわりの中で回答者が注意していることをお答えください
1「子どもの興味や関心を観察する」
2「子どもに意向を尋ねる」
3「お友だち／兄弟姉妹の関係性の関係性から推察する」
その他:
戻る
次へ
フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシーポリシー
Google フォーム

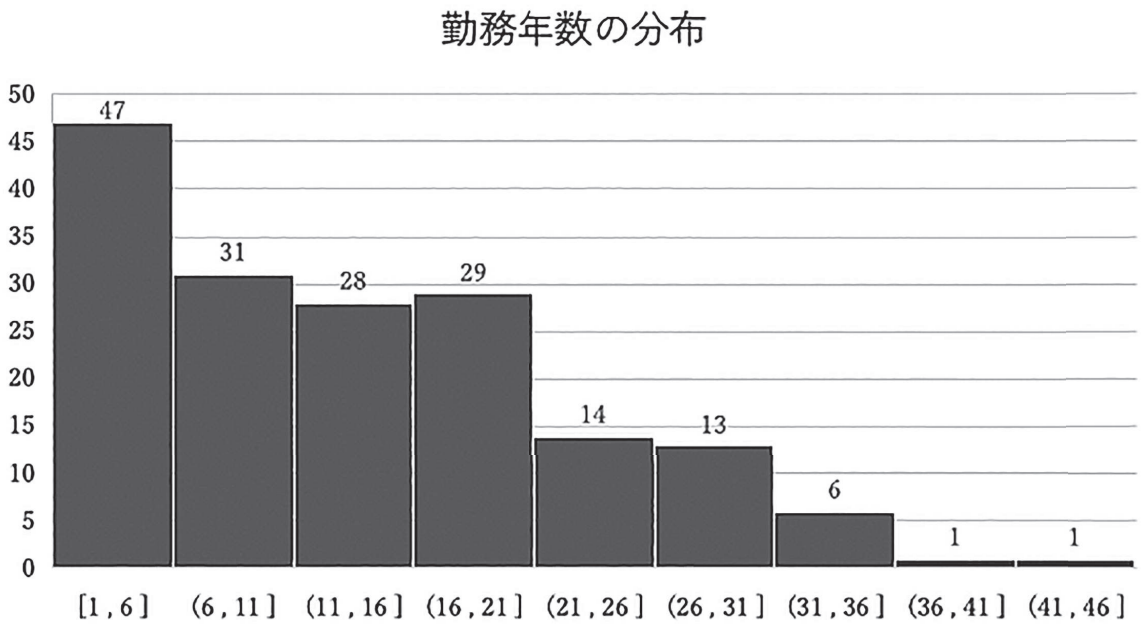

【保護者版】2歳児に関するアンケート
アカウントを切り替える
共有なし
2歳児（満２歳児・２歳児クラス）に関するアンケート
⑩園での子どもの様子をどれくらい知っていますか？
お子さんとのかかわりの中で保育者からお子さんの様子を聞いている頻度をお答えください
1「いつも聞いて知っている」
2「ある程度知っている」
3「たまに聞く」
4「ほとんど知らない」
⑪保育者との連携・コミュニケーションの質に満足していますか？
お子さんとのかかわりの中で保育者とのコミュニケーションの感じ方をお答えください
1「満足している」
2「まあまあ満足している」
3「少し物足りない」
4「満足していない」
戻る
送信
フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシーポリシー
Google フォーム

② **回答者の状況：**

（ア）保育者：（回答者170名）

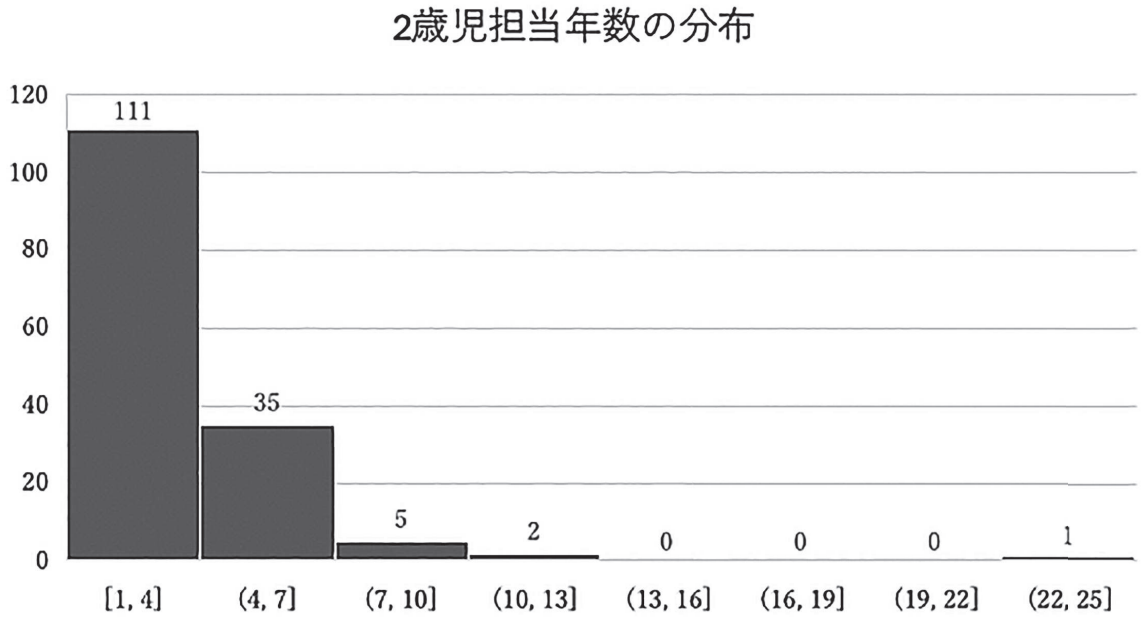
保育者の勤続年数の分布（170名）

平均勤続年数14年



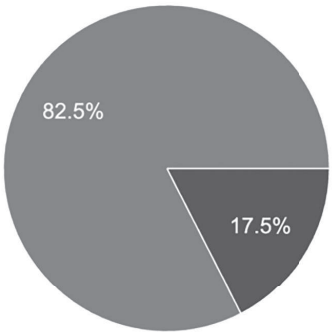
２歳児担当年数の分布（165名）

平均担当年数3.3年



（イ） 保護者：（回答者349名）

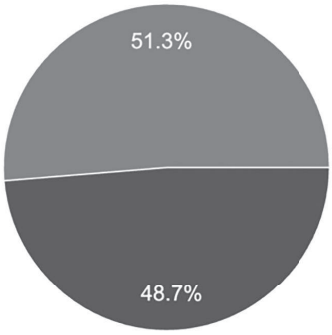
回答者
349 件の回答



● 1「父」
● 2「母」

子どもの状況①

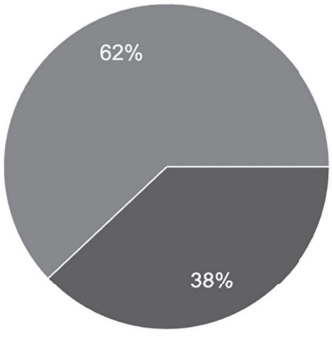
お子さんについて①
347 件の回答



● 1「第1子」
● 2「第2子以降」

子どもの状況②

お子さんについて②
345 件の回答

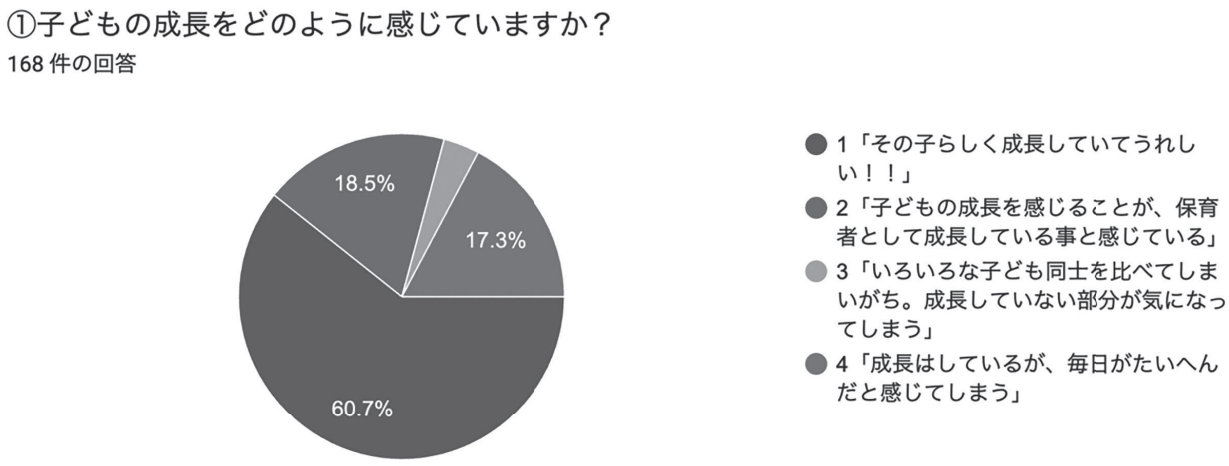


● 1「1歳児クラス」
● 2「2歳児クラス」

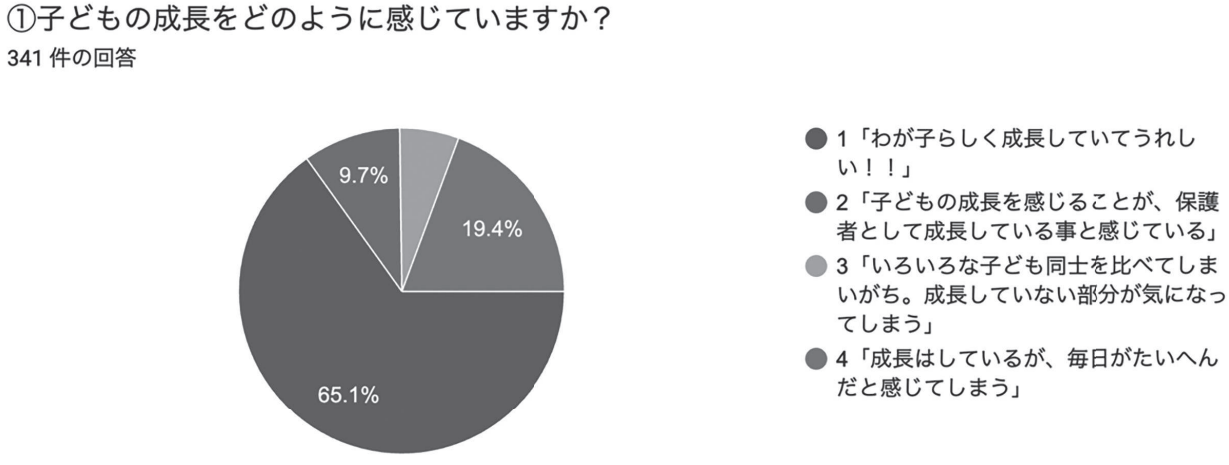
Ⅲ．アンケートの結果と設問ごとの考察

①　子どもの成長をどのように感じていますか？

◯保育者：
「その子らしく成長していてうれしい!!」60.7%
「子どもの成長を感じることが、保育者として成長している事と感じている」18.5%
「いろいろな子ども同士を比べてしまいがち。成長していない部分が気になってしまう」3.6%
「成長はしているが、毎日がたいへんだと感じてしまう」17.3%



◯保護者：
「その子らしく成長していてうれしい!!」65.1%
「子どもの成長を感じることが、保護者として成長している事と感じている」9.7%
「いろいろな子ども同士を比べてしまいがち。成長していない部分が気になってしまう」5.9%
「成長はしているが、毎日がたいへんだと感じてしまう」19.4%



保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

１．子どもの成長に対する喜びの感じ方：

保育者の60.7％が子どもの「その子らしく成長していてうれしい」と感じており、保護者ではこの比率が65.1％とわずかに高い結果になった。この僅かな差は、保護者が日々の変化を直接的に観察する機会がより多いため、子どもの個性的な成長に対する喜びを強く感じやすいと考えられる。保育者は多くの子どもを同時に見守る中で、一人ひとりの成長を感じる瞬間を捉えることが難しい場合があるかもしれないが、それでも大多数が子どもの成長に対して肯定的な感情を持っていることは、保育者が子ども一人ひとりに対して注意深い観察と個別の関心を持っているという証しであると考えられる。

２．自身の成長と子どもの成長の関連性の認識：

保育者の18.5％が子どもの成長を通して自身の成長を感じているのに対し、保護者ではその割合が9.7％と低くなった。これは、保育者が職業上、子どもたちの成長をサポートすることによって、自身のスキルや知識が拡張されるという直接的な経験をしていることを反映しているかもしれない。一方で、保護者は子どもの成長を自己成長と直接結びつけるよりも、子ども自身の成長として捉える傾向があると考えた。これは、保育者と保護者が子どもの成長に対して異なる視点を持っていることを示しており、保育者は保育の専門職としての自己実現と子どもの発達が相互に結びついていると感じている部分が多いと考えられる。

３．子どもの成長に対する悩みや困難の感じ方：

保育者の中で「いろいろな子ども同士を比べてしまいがち。成長していない部分が気になってしまう」と答えたのは3.6％に対し、保護者は5.9％とやや高い結果が出ている。また、「成長はしているが、毎日がたいへんだと感じてしまう」と感じる割合も保護者の方が高い（19.4％対17.3％）。これは、保護者が子どもの日常生活により密接に関わっており、その成長の遅れや日々の育児の大変さをより身近に感じていることが原因かもしれない。保育者は職業として子どもたちの成長をサポートしているため、成長の遅れや日常的な困難に対しても保育の専門職としての対応を心がけていると考えられるが、それでも日々の繰り返しや集団の中での一人ひとりの個別のニーズに対応することは容易ではないと考えられる。

これらの結果から、保育者と保護者の間で子どもの成長に対する感じ方や反応には微妙な違いがあることがわかる。また、双方ともに子どもの成長に対してポジティブな感情を持つ一方で、育児や教育のプロセスに伴う苦労や挑戦にも直面している様子がうかがえる。これらの知見は、保育者と保護者のより良い協力関係の構築や子どもの成長を支えるための支援体制の改善に役立てられると示唆される。

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

②　子どもと遊んでいますか？

１．日々の遊びの実施率の差異：

保育者の中で「ほとんど毎日」遊ぶと答えた割合は85.1％であり、これは保護者の70.1％と比較して約15％高い結果となっている。この差異は、保育者が職務上、子どもたちとの遊びを日常的な活動として組み込んでいることを示しており、彼らの職業的な役割が反映されている。一方で、保護者は家庭での役割分担、仕事の時間、またはその他の家庭内の事情によって、子どもと遊ぶ頻度が保育者よりも低くなる可能性を示している。このことは、家庭と園との間で子どもとの関わり方に違いがあることを示しており、保育者と保護者の協力体制を強化することで、子どもの発達をより支えることができる可能性を示唆している。

２．保育者と保護者の時間的制約：

保育者は業務として子どもとの遊びを計画的に行うことが求められているため、その頻度が高くなるのは自然な流れだ。しかし、保護者が「半分未満／週」で遊ぶと答えた割合が保育者よりも11.5％高いことから、保護者は仕事や家事とのバランスを取りながら子どもとの時間を見つけることに苦労している可能性を示していると考えられる。この結果からは、保護者が直面している時間的制約と、子どもと過ごす質の高い時間を確保するための支援が必要であることが示唆される。

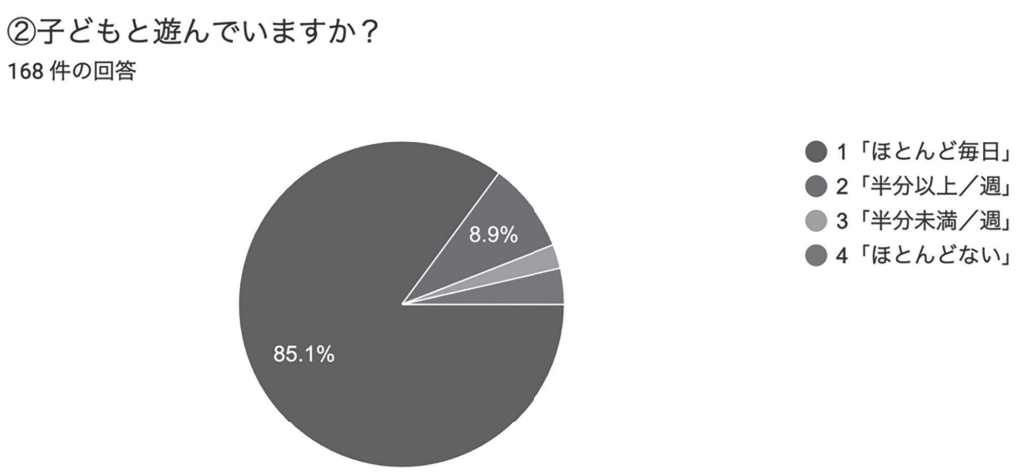
３．園と家庭環境の役割分担：

園では保育者が子どもとの遊びを通じて教育的な活動を意図的に行うことができるが、家庭では保護者が子どもと遊ぶことが、教育的な意図だけでなく、

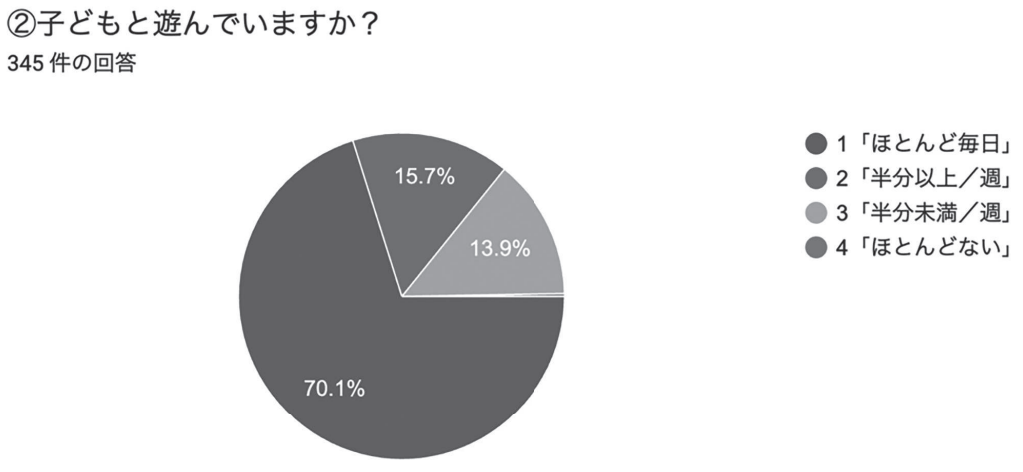
親子の絆を深める重要な役割を果たしている。しかし、保護者が「ほとんどない」と回答した割合がほぼゼロであることから、家庭においても子どもとの遊びを重視している保護者が多いことがわかる。ただし、園と家庭での遊びの質や内容には違いがあると考えられ、この点を明確にし、両者が補完し合うような連携を模索することが、子どもの総合的な発達に寄与すると考えることができる。

以上の点から、保育者と保護者はそれぞれが子どもとの遊びに対して異なるアプローチを取りながらも、その重要性に関しては共通の認識を持っていることが示唆される。今後は、保育者と保護者が相互に情報を共有し、一貫したサポートを提供するための連携を強化することが求められるだろう。また、保護者が抱える時間的制約を理解し、彼らが子どもとの時間をより質の高いものにするための支援策を検討することも重要だ。園と家庭環境の役割分担を明確にし、保育者と保護者が連携して子どもの成長を支えることが、子どもたちの幸せと発達にとって最善の方法であると考えられる。

◯保育者：
「ほとんど毎日」85.1%　「半分以上／週」8.5%　「半分未満／週」2.4%　「ほとんどない」3.6%



◯保護者：
「ほとんど毎日」70.1%　「半分以上／週」15.7%　「半分未満／週」13.9%　「ほとんどない」0.3%



③　子どもとかかわっていますか？（やりとり・対話など）

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

この設問の結果から子どもとの日常的な関わりに関して、保育者と保護者の間にはわずかながら差異があるが、両者ともに「ほとんど毎日」子どもと関わっていると答えている割合が高いことがわかる。この結果から示唆される内容は以下の通り。

１．保育者と保護者の関わりの頻度におけるほぼ一致：

保育者（94.6%）と保護者（94.8%）ともに「ほとんど毎日」子どもと関わっていると答えており、これは保育者の職務における必然性だけでなく、保護者の子どもへの深い愛情と関心を示している。このほぼ一致する結果は、子どもとのやり取りが日常生活の中で重要視されていることを示し、親子の絆や教育的影響が日々のコミュニケーションを通じて強化されている可能性がある。

２．子どもとの関わりに対する認識の共有：

「半分未満／週」や「ほとんどない」と答えた保育者と保護者は非常に少数であり、これは子どもとの関わりがいかに重要であるという認識が、職業に関わらず共有されていることを示している。このことから、子どもの発達や心理的な安定に対する認識が、社会的なコンセンサスとして広く認められていることが推察される。

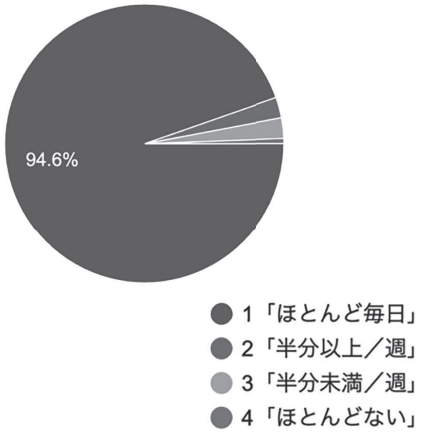
３．保育者と保護者の間のコミュニケーションの機会：

保護者が「ほとんど毎日」子どもと関わっている割合がわずかに保育者よりも高いことは、家庭内のプライベートな環境が子どもとのコミュニケーションを取る上で有利であることを示している。保育施設における複数の子どもへの同時的な注意が求められる環境と比較して、家庭では子ども一人ひとりにより集中的な注意を払うことが可能だ。しかし、保育者による子どもとの関わりの頻度が非常に高いことは、保育施設が子どもの日々の生活の中で非常に重要な役割を果たしていることを示している。

これらの結果からは、保育者と保護者が子どもとの関わりにおいて共通の価値観を共有しており、子どもたちの健全な発達にとって積極的なコミュニケーションが重要であるということが示唆される。また、家庭と保育施設の連携を強化し、子どもが異なる環境においても一貫したサポートと関心を受けることができるような体制を築くことが、子どもの全面的な成長を促進するポイントであると考える。

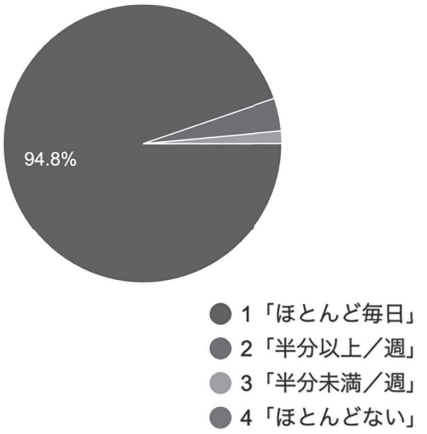
◯保育者：
「ほとんど毎日」94.6%　「半分以上／週」2.4%
「半分未満／週」 2.4%　「ほとんどない」0.6%

③子どもとかかわっていますか？（やりとり・対話など）
168 件の回答



◯保護者：
「ほとんど毎日」94.8%　「半分以上／週」3.8%
「半分未満／週」 1.4%　「ほとんどない」 0%

③子どもとかかわっていますか？（やりとり・対話など）
343 件の回答



④　子どもと一緒に遊ぶ際、どれくらいの頻度で子どもの意向を尊重しますか？）

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

１．子どもの自主性へのアプローチの差異：

保育者は「ほとんど毎回子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」と回答した割合が40.5％であるのに対し、保護者はこの割合が32.9％とやや低いことがわかる。一方で、保護者は「半分以上子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」と回答している割合が57.1％と保育者を上回っている。このことは、保育者は日常的に子どもたちとの相互作用において、保育カリキュラムや子ども主体の観点から子どもの意向を尊重することを重視していると解釈できる。他方、保護者は家庭内での対話や子どもの自発性を尊重する場が多い一方で、すべての遊びにおいて子どもの意向を優先することは少ない事も示している。

２．子どもの選択権と保育者・保護者の役割の理解：

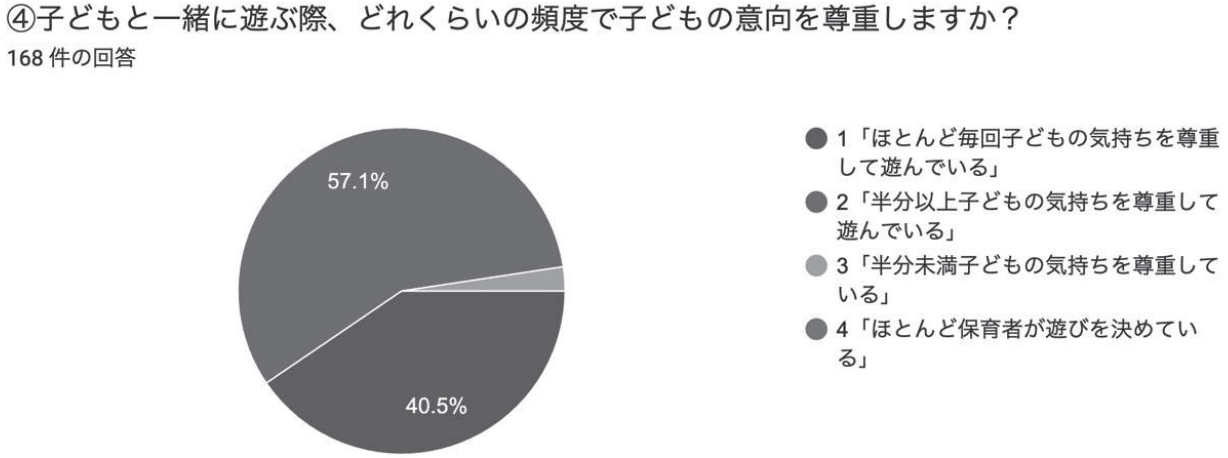
保育者が遊びを決めていることはほとんどなく、この結果は保育者が子どもの主体性を重視し、子ども主体の遊びを奨励していることを示している。一方、保護者はほとんどの場合で子どもの意向を尊重しているものの、わずかに「ほとんど保護者が遊びを決めている」と回答している場合がある。これは保護者が子どもに対してより指導的な役割を担っている可能性を示しており、家庭内での教育的アプローチの一環として、時には大人が遊びを決めることもあることを反映している事を示していると考えられる。

３．子どもとの関わりにおける柔軟性：

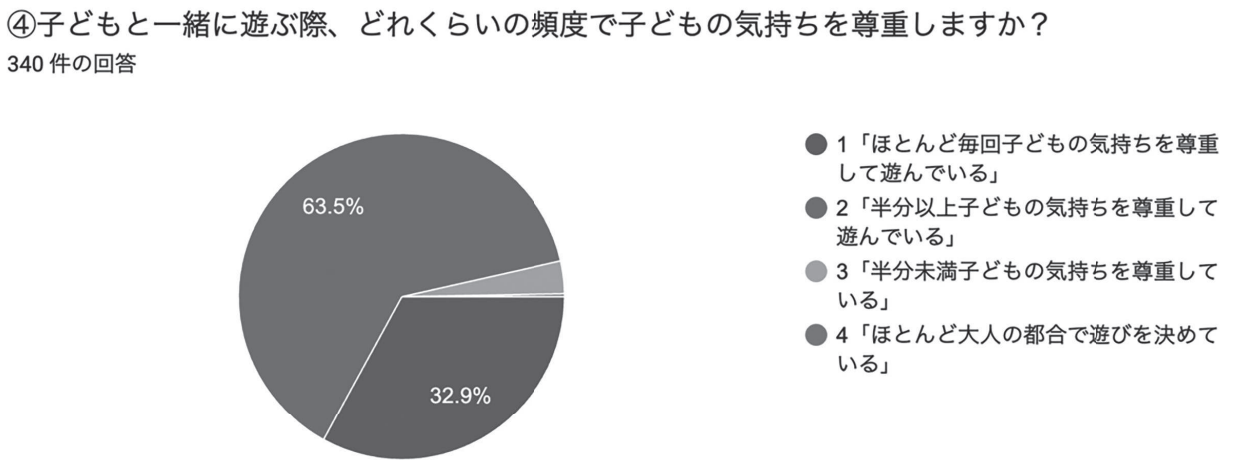
「半分未満子どもの気持ちを尊重している」と回答した保育者は2.4％にとどまっているが、保護者では3.2％がこのように回答している。これは、家庭においては子どもの気持ちを尊重すると同時に、家庭内のルールや親の日常生活のリズムに合わせる必要があるため、保育者よりも柔軟性が求められる場面が多いことを示唆している。保育者は集団での活動を調整しながらも、子ども一人ひとりの主体性を尊重することにより、子どもたちの社会性や協調性を育む機会を提供していると考えられる。

これらのことから、保育者と保護者の間に見られるこのような差異は、それぞれが異なる環境と役割を持ちながらも、子どもの発達を支える共通の目的を持っていることを示している。保育者と保護者が協力し、お互いの違いを理解することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができると考える。

◯保育者：
「ほとんど毎回子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」40.5%
「半分以上子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」57.1%
「半分未満子どもの気持ちを尊重している」2.4%
「ほとんど保育者が遊びを決めている」0%



◯保護者：
「ほとんど毎回子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」32.9%
「半分以上子どもの気持ちを尊重して遊んでいる」63.5%
「半分未満子どもの気持ちを尊重している」3.2%
「ほとんど保育者が遊びを決めている」0.3%



⑤　子どもが困難やトラブルに直面した際、どのタイミングでかかわりますか？

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

１．介入のタイミングと方法に関する認識の違い：
保育者の中で「できるだけ早く介入する」と答えた割合は21.4%にとどまるが、保護者ではその割合がほぼ倍の43.0%となっている。これは、保育者が子どもの主体性と問題解決能力を育むために、子ども同士での解決を促す傾向があることを示している。一方で、保護者は自分の子どもが直面する困難に対して即座に介入しようとする傾向があり、子どもを守りたいという本能的な保護者としての役割が影響していると考えられる。これは、家庭内での安全と安心の確保が最優先されることが一因の１つであることだと考えられる。

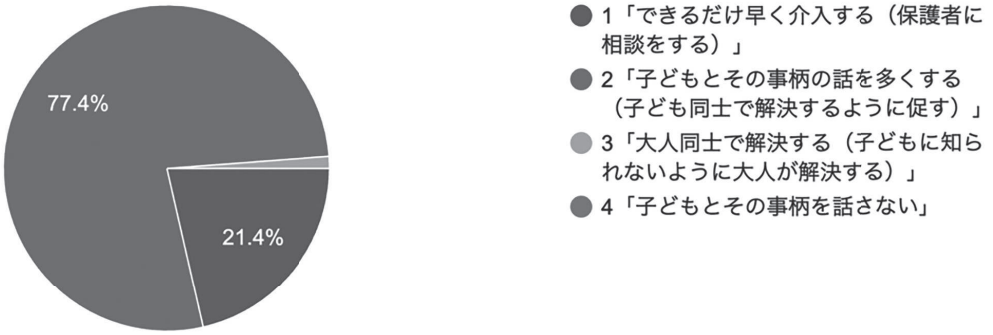
２．子どもの社会的スキルの発達に対する期待：
保育者が「子どもとその事柄の話を多くする」を選んだ割合が77.4%と非常に高いのに対し、保護者では54.6%となっている。これは、保育者が日々の保育の中で、子どもたちが社会的スキルを発達させる機会としてトラブルや困難を捉えていることを示唆している。保育者は子どもたちが自己主張を学び、仲間との協力や衝突を経験する中で、人間関係を構築する能力を育むことを重視していると言える。それに対して、保護者は子どもが安全な環境で成長することを望むがゆえに、コンフリクトの解決に直接関わろうとする傾向があるようだ。

３．子どもの自主性と保護者の関与のバランス：
「大人同士で解決する」および「子どもとその事柄を話さない」と回答した割合は保育者と保護者でほぼ同じだ。これは、どちらも子どもが直面する問題の重大性を認識している一方で、その解決に際しては大人の役割を限定的に見る傾向があることを示している。この結果からは、子どもの主体性を尊重する現代の保育理念が、保育者と保護者の間で共有されているとも解釈できるが、子どもを取り巻く問題の性質によっては、保護者としての介入が必要とされる場面もあることを示唆している。
保育者と保護者の差異は、それぞれの立場における子どもへの関わり方の違いを明確に示している。保育者はより保育的観点から子どもの社会性の発達を促し、保護者は子どもの安全と心の安寧を保つことに重点を置いている。この二つの異なるアプロー

チは、子どもにとって必要なバランスを提供し、成長の過程における様々なニーズに応えることが可能になる。しかし、この違いが子どもの自己肯定感※7)や問題解決能力の発達にどのように影響するかについては、今後さらに研究と議論が必要だと考えられる。また、保育者と保護者が協力し、お互いの違いを理解することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができると考える。

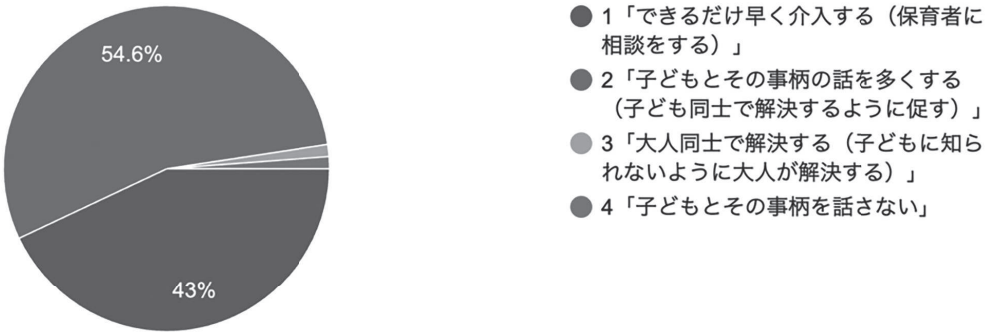
◯保育者：
「できるだけ早く介入する（保護者に相談をする）」21.4%
「子どもとその事柄の話を多くする（子ども同士で解決するように促す）」77.4%
「大人同士で解決する（子どもに知られないように大人が解決する）」1.2%
「子どもとその事柄を話さない」0%

⑤子どもが困難やトラブルに直面した際、どのタイミングでかかわりますか？
168 件の回答



◯保護者：
「できるだけ早く介入する（保護者に相談をする）」43.0%
「子どもとその事柄の話を多くする（子ども同士で解決するように促す）」54.6%
「大人同士で解決する（子どもに知られないように大人が解決する）」1.2%
「子どもとその事柄を話さない」1.2%

⑤子どもが困難やトラブルに直面した際、どのタイミングでかかわりますか？
335 件の回答



⑥　子どもの自発的・主体的な行動や発言を奨励するためには、どのようなサポートや手だて・方法を使用しますか？

◯保育者

子どもの自発的・主体的な行動や発言を奨励するためのサポートや手だて・方法を以下の４つのカテゴリーに整理できる。

１．環境設定と資材の提供
- ・子どもの興味に合わせた遊び道具や教材を用意する。
- ・活動選択の自由度を高めるための環境を整える。
- ・選択肢を提供し、子どもが自分で選べるような環境を作る。

２．コミュニケーションと対話の促進
- ・子どもの話をよく聞き、理解しようとする姿勢を示す。
- ・質問や話し合いを通じて子どもの意見や思考を引き出す。
- ・子どもとの対話の中で、子どもの発言を大切にする。

３．観察と適切な介入
- ・子どもの遊びや行動を注意深く観察する。
- ・必要な時に適切な援助やアドバイスを提供する。
- ・子どもの選んだ活動を見守り、適切なタイミングでの声かけを行う。

４．認知と肯定の強化
- ・子どもの成果や試みを積極的に認めて褒める。
- ・子どもの自主性を尊重し、自分で考え行動する機会を促進する。
- ・子どもの感情や意志を受け入れ、それに対して肯定的な反応を示す。

⑥における保育者の傾向：

⑥における保育者の子どもへの関わり方は、環境設定と資材の提供、コミュニケーションと対話の促進、観察と適切な介入、認知と肯定の強化の４つの主要なカテゴリーに分けられると考える。これらのアプローチは、子どもたちの自発的な学びと成長を促進するための環境を整えることを目指していることが示唆される。環境設定と資材の提供においては、保育者は子ども一人ひとりの興味や関心に合わせた遊びや教材を提供し、主体的な活動を選べるような環境を整備していることが示されていると考える。子どもたちに選択の余地がある環境で保育することで、自らの自己決定する機会と創造性を養うことが示唆される。

コミュニケーションと対話の促進では、保育者は子どもたちの話を積極的に聞き、子どもたちの考えや意見を尊重することに重点を置いていることが示されています。質問や話し合いを通じて子どもたちの思考を刺激し、子どもたちの言葉を大事にすることで、言語能力と社会性の発達を支えていることが示唆される。

観察と適切な介入では、子どもの行動や遊びを慎重に観察し、子ども一人ひとりが自分のペースで活動できるよう支援していることが示されている。必要に応じて、保育者は適切なアドバイスや援助を行い、子どもたちが自らの選択を主体的に経験できるように援助している事が示唆される。

最後に、認知と肯定の強化では、子どもたちの行動の過程や成果を認め、積極的に認めることで自尊心を育てていることが示されていると考える。また、子どもたちの主体性を尊重し、感情を受け入れて肯定的に反応することで、子どもたちの自信と自己効力感※6）を高めていることが示唆される。

これらをとおして、子どもたちが社会に必要なスキルを身につけるとともに、自分自身を理解し、他者を尊重する能力を発展させる上で重要であると考える。保育者は、園での経験を通じて子どもたちが自立し、思いやりのある人間に成長することを支援しており、そのために、保育者は子どもたちが自分の感情や意志を理解し表現することを促し、学びの過程で自分を肯定的に捉えることができるよう努めていることが示唆される。

◯保護者

それぞれのコメントが指しているのは、子どもの自主性を奨励しサポートする方法に関連しており、以下のような４つのカテゴリーに整理することができると考える。

１．見守りと自由度の提供：
- ・子どもにやりたいことを好きなようにさせる。
- ・親がすぐに介入しないように意識する。
- ・子どもが自発的に何かを始めたら、それをサポートする。
- ・危険でない限り、子どもが自由に遊ぶことを許可する。

２．積極的なコミュニケーション：
- ・子どもの意見や気持ちを聞く。

・子どもが話し始めるまで待つ。
・子どもの興味や関心を尊重して、それに沿った活動をさせる。
・子どもが伝えたいことを理解し、それを肯定する。

3．自己効力感の促進：
・子どもが初めて何かを達成したときには、たくさん褒める。
・失敗しても大丈夫という安心感を与え、再挑戦を促す。
・子どもに自分の選択をさせ、その選択を尊重する。
・小さな成功体験を重ねさせることで自信を育む。

4．学習と発達のサポート：
・新しい体験や活動に挑戦させるための機会を提供する。
・家庭や外での教育的な活動に参加させる。
・保育園や教育機関と協力して、子どもの成長を促す。
・子どもに何かを教えるときは、遊びや実践を通じて行う。

⑥における保護者の傾向：

これらのことから、⑥における保護者の傾向は、見守りと自由度の提供、積極的なコミュニケーション、自己効力感の促進、学習と発達のサポートの４つのカテゴリーに分類されると考える。見守りと自由度の提供では、子どもたちに自己決定の自由を尊重し、彼らが興味を持った活動を自発的に探求させることを重視しており、保護者がすぐに介入せず、子どもが安全である限り自由に探求する環境を提供することが示唆される。

次に、積極的なコミュニケーションでは、子どもの意見や感情を真摯に聴き、彼らの興味や関心に基づいた活動を推奨すると考えられる。これは、子どもが自身の考えを共有しやすい環境を作ることによって、彼らの自己表現とコミュニケーション能力を育むことを重要視していることが示唆される。

自己効力感の促進では、子どもの自主性と達成感を重視し、初めての成功体験を豊かに認めることで、自信を育み、失敗を恐れずに挑戦する精神を養うことが示されていると考える。また、子どもが自らの選択を行い、その結果を尊重することで、決断力と自律性を促進することが示唆される。

最後に、学習と発達のサポートでは、子どもたちが新しい知識や技能を身につける機会を積極的に提供し、家庭や外での教育的な活動への参加、園や教育機関との連携による成長支援、遊びや実践を通じた教育的アプローチを通じて行われていることが示唆される。

これらをとおして、保護者は子どもたちの自立心、コミュニケーション能力、内面の強さ、そして学ぶ意欲を育成することに注力していることが示されている。子どもたちが健全な社会性を身につけ、情緒的にも知的にも成長するための基盤を築くために重要であると考えられる。保護者は、子どもたちが自分自身の能力を信じ、好奇心を持ち続けることを励ましており、このような子育ては、子どもたちが将来的に直面するであろう様々な困難に挑戦することに繋がる準備であることが示唆される。

⑦　子どもとコミュニケーションを取れたと感じる頻度はどれくらいありますか？

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

1．コミュニケーションの頻度と質の違い：

保育者と保護者の間で、「ほとんど毎日」コミュニケーションを取れたと感じると答えた。割合には微妙な差（86.4％対89.6％）が見られる。保護者の方が若干高い割合で毎日のコミュニケーションを経験していると答えており、これは家庭内での親子関係の密度の高さを反映している可能性がある。一方で、保育者は日々多くの子ども達と関わる必要があり、個々の子どもとのコミュニケーションに制限があることも考えられる。しかし、保育者も高い割合で毎日のコミュニケーションを実感しており、これは保育者が子どもたちとの関わりを密にし、一人ひとりの子どもに対して注意を払っていることを示している。

2．関わりの深さと自己認識の違い：

保護者が少し高い割合で「ほとんど毎日」コミュニケーションが取れたと感じることから、親としての自己認識や子どもとの絆の深さが保育者よりも強調されている事を示していると考えられる。一方、保育者は保育の専門職としての立場から、子どもたちとのコミュニケーションの機会を均等に配分しようと努力していることが伺える。これは、保育者が自己の役割を意識しており、子ども一人ひとりとの関係性を育むために専門的なアプローチを取り入れ

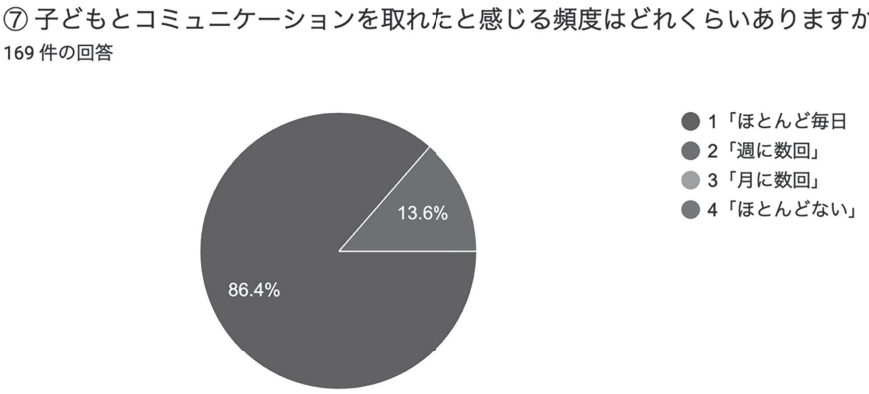
ているとも解釈できる。

3．子どもへのアクセスと機会の違い：

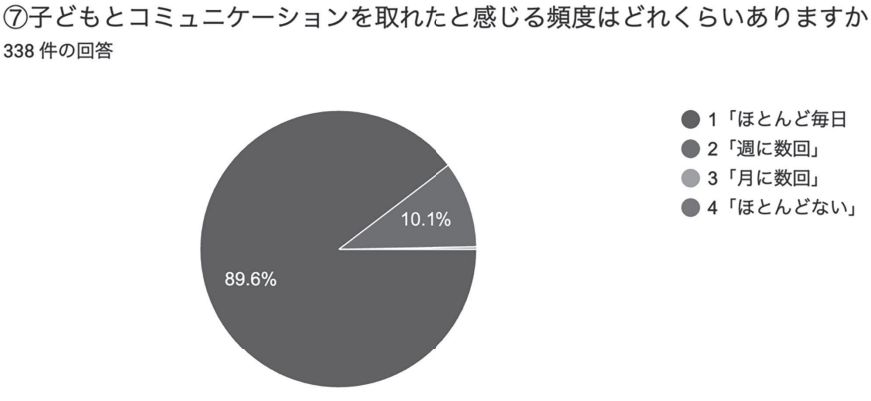
保育者に比べて保護者がコミュニケーションを取れている頻度が高いと感じるのは、保護者が子どもと過ごす時間の量と質の両方で優位にあることを示している。保護者は子どもの日常生活の大部分を共有し、子どもの感情や思考に対してより直接的・個別的な関わりを持っている。この点では、保育者は保育時間の中で、多数の子どもたちとの質の高いコミュニケーションを確立しようとする挑戦に直面している事を示していると考えられる。

これらのことから、保育者と保護者の間のこの微妙な差異は、それぞれの役割や環境の違いから生じていると考えられる。保護者は個々の子どもに対する愛情と関心が深く、自然な日常の流れの中でコミュニケーションが生じる。一方で、保育者は保育的観点と専門的な関わりを通じて、子どもたちとの意味のあるコミュニケーションを築き上げていることも示唆している。これらの違いを理解し、お互いの視点から子どもの発達を支援することが、子どもにとって最も有益な環境を提供する鍵となると考える。保育者と保護者が相互に理解と協力を深めることで、子どもたちが社会的スキルと感情的な安定を培い、健全な成長を遂げることができると考える。

◯保育者：
「ほとんど毎日」86.4%　「週に数回」13.6%　「月に数回」0%　「ほとんどない」0%



◯保護者：
「ほとんど毎日」89.6%　「週に数回」10.1%　「月に数回」0.3%　「ほとんどない」0%



⑧　子どもの成長（主体性や自立心）の成長を感じる瞬間は何ですか？

◯保育者

子どもの成長（主体性や自立心）を感じる瞬間を整理すると、以下の４つのカテゴリーに分けられる。

１．自己表現とコミュニケーションの発展
- ・言葉で自分の思いや意志を伝えるようになった時。
- ・語彙が増え、会話が豊かになり、自分の意見をしっかりと言えるようになった時。

２．自立した行動の確認
- ・身の回りのことを自分で行うようになった時（着替え、排泄、食事など）。
- ・「自分でやる」と主張し、新しいことや難しいことにも挑戦する姿勢を見せた時。

３．社会的関わりと共感の表現
- ・友達との関わりで協調性を見せ、物の貸し借りや助け合いができるようになった時。
- ・他人の感情に気付き、共感や慰める行動をとるようになった時。

４．成功体験と自己効力感の向上
- ・以前できなかったことが自分でできるようになり、その成功に喜びや達成感を感じる時。
- ・自分の行動でポジティブな結果を得られたときに自信を持つようになった時。

⑧における保育者の傾向：

⑧における保育者の傾向は、子どもの成長は、日々の小さな変化の中に見出すことができる事が示されていると考える。これらの変化は、自己表現とコミュニケーションの発展、自立した行動の確認、社会的関わりと共感の表現、そして成功体験と自己効力感の向上という４つのカテゴリーに分類できると考える。自己表現とコミュニケーションの発展では、子どもが言葉を使って自分の考えや意志を伝えるようになる瞬間が重要であることが示されている。語彙が増え、会話が豊かになることで、子どもは自分の意見をしっかりと表現できるようになり、これは社会的相互作用と自己認識の発達を示唆している。

自立した行動の確認では、子どもが日常生活の基本的なことを自分でできるようになることが指標となる事が示されていると考える。着替えや食事といった基本的な生活習慣の獲得や、「自分でやりたい」という心情は、自立心と自己管理能力の向上を意味していると考える。

社会的関わりと共感の表現は、子どもが友達との関わりの中で協調性を発揮し、共感や慰める行動をとるようになることで観察される事が示されていると考える。これは、他者との関係を築き、社会的な感情を理解し、反応する能力が育っている事が示唆される。

成功体験と自己効力感の向上では、子どもが自らの力で何かを成し遂げたときに感じる喜びや達成感が重要である事が示されていると考える。これは、子どもが自分の行動がポジティブな結果を生むと認識し、自信を持つようになる過程を示唆していると考える。

これらをとおして、一人ひとりの子どもの成長を捉えるための環境を提供し、保護者や保育者が子どもの発達をサポートし、育成するためのパートナーとなる事の重要性を示していると考える。それぞれの瞬間は、子どもが自立した個として成長し、世界との相互作用の中で自分の場所を見つける過程を示唆していると考える。

◯保護者

子どもの成長（主体性や自立心）を感じる瞬間をカテゴリーに整理すると以下のように分類できる。

１．コミュニケーション能力の発達
- ・言葉が増え、会話が成立するようになった。
- ・意思をはっきりと伝えるようになった。
- ・自分から日常の出来事を話すようになった。
- ・他者とのコミュニケーションを取る際の発言や振る舞い。

２．自立した行動の増加
- ・自分で身の回りのことを行うようになった（着替え、食事、整理整頓など）。
- ・何でも自分でやりたがるようになった。
- ・自主的にお手伝いをするようになった。
- ・新しいスキルや遊びを自分で試みる姿勢。

３．自己表現と自己決定
- ・自分の好き嫌いややりたいことを明確に表現する。
- ・自分の意見をしっかりと主張する。
- ・感情や感想を言葉で説明できるようになった。
- ・自分の行動や選択に対する意思決定をする。

４．社会的・感情的な発達
- ・他人への思いやりや手助けをする。
- ・兄弟や友達との関わり合いや遊びの中での成長。

・自分の感情をコントロールし、適切に表現する。
・喜怒哀楽を豊かに表現し、感情に富んだ行動をとる。

⑧における保護者の傾向：

⑧における保護者の傾向は、子どもの成長過程は多面的であり、その発達は保護者にとって意義深い時間が提供されていることが示され、コミュニケーション能力の発達、自立した行動の増加、自己表現と自己決定の強化、社会的・感情的な発達の４つのカテゴリーに分類できると考える。コミュニケーション能力の発達では、子どもたちの言葉の増加や会話の成立は保護者にとって大きな喜びである事が示されている。子どもが自分の意志をはっきりと伝え、日常の出来事について積極的に話し始めることは、子どもが社会的な交流において自己表現の能力を獲得している証しであると保護者が感じている事が示唆される。

自立した行動の増加においては、子どもたちが自分で身の回りのことを行うようになる瞬間は、自立心の重要な節目となるとが示されている。何でも自分でやりたがる姿勢や、自主的に家庭内でのお手伝いを始めることは、子どもの成長と自己管理能力の発展を示している事を保護者が感じて取っていることを示唆される。

自己表現と自己決定の強化では、子どもたちが自分の好き嫌いや、やりたいことを明確に表現し、自分の意見をしっかりと主張する様子は、自分自身の感情や願望に対する認識が深まっていることを示していると考える。これらは、子どもたちが自らの意思決定を行い、その選択に責任を持つようになる過程を捉えている事が示唆される。

社会的・感情的な発達では、他人に対する思いやりや手助けの行動、兄弟・姉妹や友人との相互作用における成長は、子どもたちが他者との関係性を築き、社会性を発達させていることを示していると考える。感情をコントロールし、適切に表現する能力は、彼らが感情的な知性を育んでいることを示唆している。

これらをとおして、子どもたちの成長の瞬間は保護者にとって貴重な時間となり、子どもたちが自立した個として成熟する過程を捉えることができると示唆される。これらの時間は子どもたちが自分の感情や行動に対する理解を深め、主体的に世界を探求し、社会の中で自己を確立していく過程だと示唆される。保護者はこれらの成長の兆しを認識し、それらを支援し、肯定することで、子どもたちの発達を積極的に促進している事が示唆される。

⑨　子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

保育者と保護者の間には、子どもの興味や関心をどのように理解し、それにどのように対応するかという点で、いくつかの顕著な違いが見られる。以下は、その差異とそれが示唆する可能性のある３つの項目である。

１．観察の重視度：

保育者は子どもの興味や関心を観察することに非常に重きを置いており（85.2%）、これは保護者（68.2%）よりも高い比率である。これは、保育者が日々の保育の中で子どもの行動や反応を注意深く観察し、それに基づいて保育計画を立て、子どもの発達を支援するアプローチを取っていることを示している。一方で、保護者は子どもに直接意向を尋ねることをより多く行っており、子ども自身の声を大切にする傾向があることを示している。

２．コミュニケーションのスタイル：

保護者は子どもに意向を尋ねることに、より重点を置いている（27.9%）のに対し、保育者はそれより少ない（9.5%）。これは保護者がより直接的なコミュニケーションを通じて子どもの興味を引き出すことを好むのに対し、保育者は子どもの自然な行動や遊びを通じて興味を読み取るという専門性を有しているといった違いを示している。

３．関係性からの推察：

両者ともに子どもの社会的関係性から興味や関心を推察することは少ないが（保育者1.8%、保護者2.6%）、保育者はこの方法をあまり使用していないことが示されている。これは保育者がより一人ひとりの子どもとの主体的な活動から直接的な関わりに基づいて興味を判断することを選んでいる可能性を示していると考えられる。

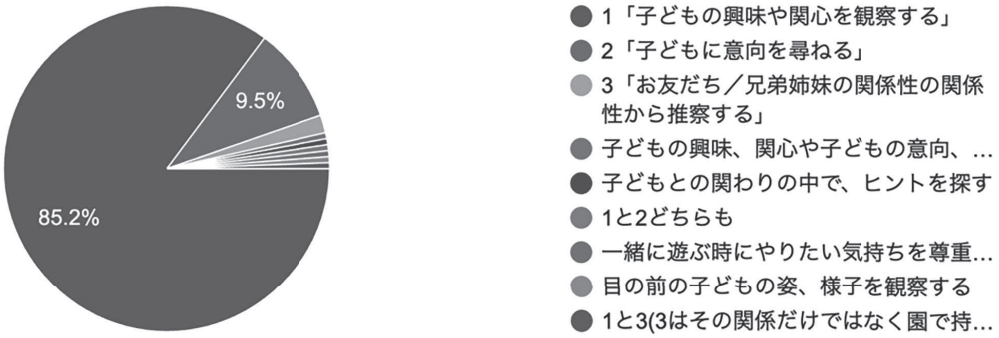
これらのことから、保育者と保護者が子どもの興味関心に対して異なるアプローチをとっており、それぞれの役割や日常生活の中での関わりの違いから来るものであると考えられる。保育者は保育的視点から子どもの行動を観察し、保育計画を立てるため

の情報を収集しているのに対し、保護者は家庭内での個別的・直接的なコミュニケーションを通じて子どもの興味を探る傾向にあることを示している。また、これらの違いは子どもが家庭と園で異なる関わり方をしていることを示しており、子どもの多様な興味や発達の側面を理解するためには保育者と保護者の両方の視点が重要であることを強調していると考えられる。

⑨　子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？

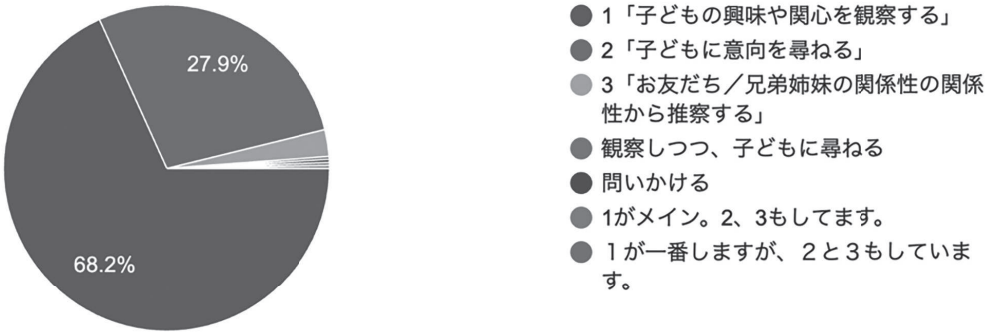
◯保育者：
「子どもの興味や関心を観察する」85.2%
「子どもに意向を尋ねる」9.5%
「お友だち／兄弟姉妹の関係性の関係性から推察する」1.8%
その他3.5%

⑨子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？
169 件の回答



◯保護者：
「子どもの興味や関心を観察する」68.2%
「子どもに意向を尋ねる」27.9%
「お友だち／兄弟姉妹の関係性の関係性から推察する」2.6%
その他1.3%

⑨子どもが何に興味関心があるか知りたい時にどのような事柄に気をつけていますか？
340 件の回答



⑩　園（家庭）での子どもの様子をどれくらい知っていますか？

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

保育者と保護者が子どもの日常の様子に対してどれだけ認識を持っているか、そして彼らの情報収集の態度や行動にどのような違いがあるかを示唆している。特に、以下の３つの差異が考えられる。

１．情報へのアクセスとその頻度：

保育者の中で「いつも聞いて知っている」と答えたのは2.4％にとどまり、大多数が「ある程度知っている」と回答している。これに対して、保護者の方が「いつも聞いて知っている」比率が高い（20.9％）ことから、保護者は子どもの園での生活に関してより積極的に情報を得ようとしていると考えられる。これは、保護者が保育時間内において子どもと過ごす時間が限られているため、積極的に情報収集を行い、子どもの日常に対する理解を深めようとする姿勢を示していると考えられる。

２．情報収集の質と深さ：

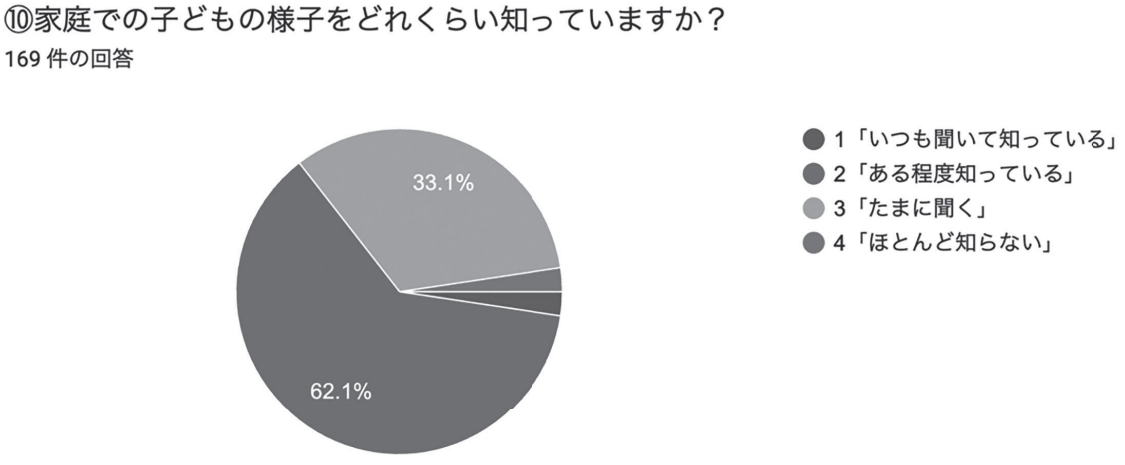
保育者は「ある程度知っている」(62.1％）と答えており、これは保育者が子どもの様子について一定の情報を持っているものの、保護者に比べて日常的に深い情報交換をしていないことを示唆している。これは保育者が多くの子ども一人ひとりを同時に見る必要があり、個々の子どもについての詳細な情報まで常に把握しているわけではないという実情を反映している可能性がある。

３．情報の共有とコミュニケーションの障壁：

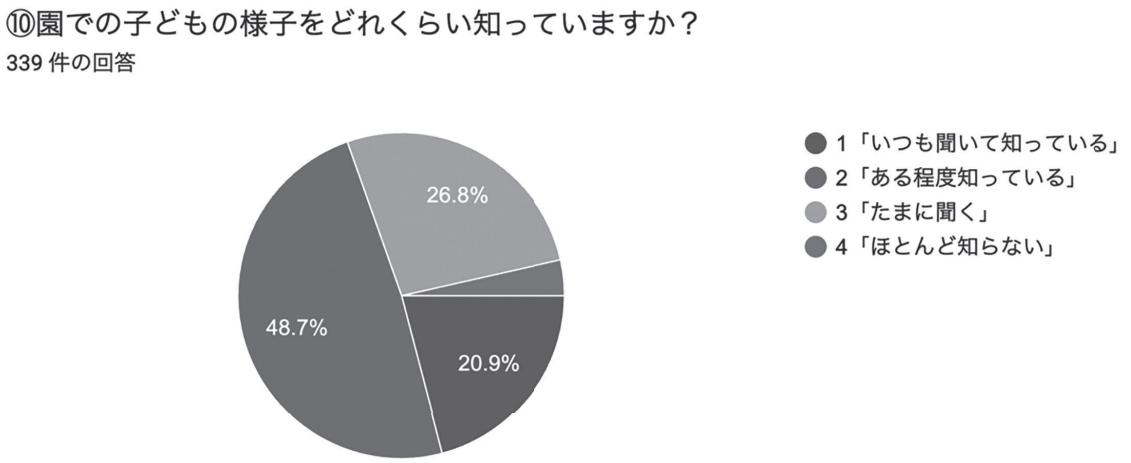
保育者と保護者の間で「ほとんど知らない」と答えた割合に少なからぬ差異がある。保育者は2.4％が、保護者は3.5％がこの選択肢を選んでおり、これは双方のコミュニケーションの障壁を示しているとも考えられる。特に保育者は多忙な日々の中で保護者と十分なコミュニケーションを取る時間が限られており、また保護者も忙しい生活の中で園の情報を得ることが難しい場合があると考えられる。これは、保育者と保護者の間で情報共有の方法や頻度を見直し、改善する必要があることを示唆している。

これらのことから、保育者と保護者がそれぞれの立場から子どもの日常に関わり、情報を得ている状況が明らかになる。保育者は、複数の子どもの保育をしながらも、一人ひとりの子どもについての情報を維持しようと努めており、保護者は園の情報に対してより積極的に関心を持ち、情報を得ようとしている様子を示していると考えられる。しかし、両者の間にはコミュニケーションの障壁が存在することも明らかにしており、情報共有の質を向上させるための努力が求められる。これには、園での定期的な面談の機会の増加、保護者向けの情報発信の充実、デジタルツールを用いたコミュニケーションの活性化など、さまざまなアプローチが考えられる。

◯保育者：
「いつも聞いて知っている」2.4%　「ある程度知っている」62.1%
「たまに聞く」33.1%　「ほとんど知らない」2.4%



◯保護者：
「いつも聞いて知っている」20.9%　「ある程度知っている」48.7%
「たまに聞く」14.2%　「ほとんど知らない」3.5%



⑪　保護者との連携・コミュニケーションの質に満足していますか？

保育者と保護者の間に見られる差異とそれが示唆する点を３項目に分けて考察する。

１．コミュニケーションの質に対する満足度の差異：
保育者の間では、8.3%が「満足している」と回答し、62.7%が「まあまあ満足している」と回答している。一方、保護者の間では、45.9%が「満足している」と回答し、38.2%が「まあまあ満足している」と回答している。この結果から、保護者は保育者よりもコミュニケーションの質に対して高い満足度を示していることがわかる。保育者は日々の業務の中で多くの子どもたちと接するため、保護者一人ひとりとのコミュニケーションに十分な時間を割くことが難しいことを示していると考えられる。これが保育者の満足度が低い一因である可能性がある。

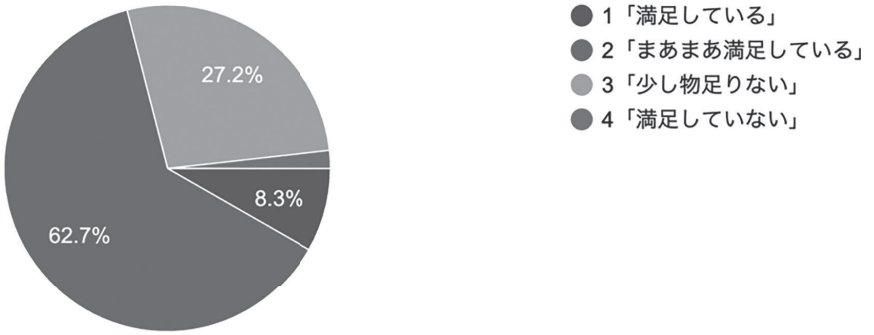
２．コミュニケーションの質に対する期待の違い：
保護者と保育者の間でコミュニケーションの質に対する期待が異なる可能性がある。保護者は自分の子どもがどのように過ごしているかを知りたいという強い願望を持っている。それに対して、保育者は日々の業務の中で複数の子どもたちの保育をしなければならず、保護者一人ひとりと深い関係を築くことが難しいことを示していると考えられる。このように、双方の期待レベルが異なるため、満足度に差が生じている可能性がある。

３．コミュニケーション手段の改善の余地：
この設問の結果からは、保育者と保護者との間でコミュニケーション手段の改善の余地があることも示唆される。現代のテクノロジーを活用し、より効果的かつ効率的なコミュニケーション方法を採用することで、双方の満足度を高めることができる可能性を示しているとも考えられる。例えば、デジタルプラットフォームを通じて定期的に子どもの様子の報告を行うことができたり、保護者が容易にフィードバックを提供できるシステムを導入することで、コミュニケーションの質を向上させることが可能あることが示唆される。

これらのことから、保育者と保護者の間でコミュニケーションの質に対する満足度には明らかな差異があり、これには複数の要因が関係していることが示唆される。今後は、双方の期待に応え、コミュニケーションの質を向上させるために、新しい手段や方法を探求することが重要であると考える。

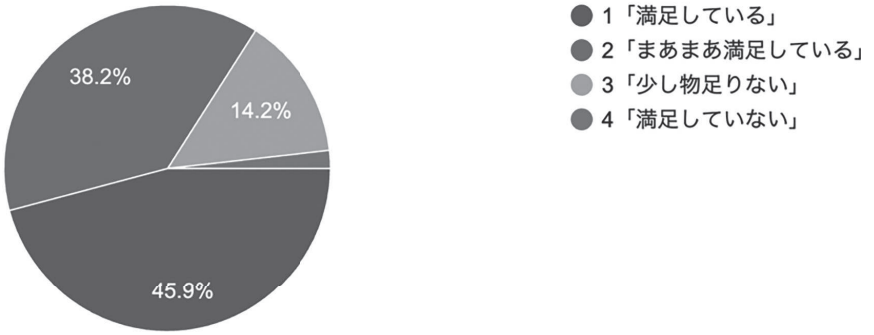
◯保育者：
「満足している」8.3%　「まあまあ満足している」62,7%
「少し物足りない」27.2%　「満足していない」1.8%

⑪保護者との連携・コミュニケーションの質に満足していますか？
169 件の回答



◯保護者：
「満足している」45.9%　「まあまあ満足している」38.2%
「少し物足りない」14.2%　「満足していない」1.8%

⑪保育者との連携・コミュニケーションの質に満足していますか？
338 件の回答



Ⅳ．総合的な考察

これらの11項目から、保育者と保護者の間で子どもの成長、関わり方、コミュニケーションの質に関して様々な視点とアプローチがあることが分かった。両者は子どもの健全な成長と発達を目指しているが、役割や環境の違いから異なる方法で子どもたちに接していることが示されたと考える。

保育者は、専門的な視点から、子どもの社会的・認知的発達に重点を置き、一方で保護者は子どもの個々の興味や感情に密接に関わることを重視している。これにより、子どもの自立心や自発性、主体性の育成においても異なるアプローチが見られる事が示された。保育者は環境設定や教具・教材の提供を通じて主体的な学びを促し、保護者は子どもの興味や感情を尊重し、自由度のある環境を提供することに重点を置いていることが示唆された。

コミュニケーションに関しても、両者は異なるスタイルを持っている事が示された。保育者はより計画的で体系的な関わりを取りながら、保護者はより日常的で感情的な関わりを持っている事が示されたと考える。この違いがあるからこそ、子どもにとって豊かな社会的経験を提供し、子どもの感情的な安定と社会的スキルの発達に寄与していると示唆される。

また、子どもが困難やトラブルに直面した際の対応方法にも違いがあることが示される。保育者は保育的な視点から子どもの主体性・社会性の発達を促し、保護者はより子どもの安全と心の安寧に重点を置いてる事が示されたと考える。これらの異なるアプローチは、子どもにとって必要な心のバランスを提供し、子どもの全面的な成長を支えていることが示唆された。

情報共有や連携においては、保育者と保護者の間にはまだ課題が存在しており、より効果的なコミュニケーション方法の探求が求められていることが示されたと考える。この点において、定期的な面談、情報発信の充実、デジタルツールの活用など、さまざまな手段が考えられ、さらなる改善が必要なことが示されたと考える。

保育者と保護者は子どもの成長を支えるために互いの違いを理解し、協力し合うことが重要だと考える。子どもの健全な発達を促進するためには、保育者と保護者がそれぞれの強みを生かし、連携することが不可欠なことが示唆される。

このような協力関係が、子どもたちの幸せと発達にとって最善の方法であると考えられ、下記５項目をより効果的な関わりの提案とさせていただく。

Ⅴ．効果的な関わり方の提案

①　デジタルコミュニケーションツールの活用

デジタルツールの活用は、保育者と保護者のコミュニケーションを効率的かつ効果的にするための重要な手段である。これにより、保育者は日々の子どもの活動や成長の様子を写真や短いメモとして迅速に記録し、保護者はいつでもこれらの情報にアクセスできる。また、専用のオンラインポータルを設置することで、保護者が子どもの進捗状況や園のイベントスケジュールを簡単に確認できるようになる。

このデジタルツールの活用は、保育者が個々の子どもに関する詳細な情報を記録し、共有する時間を節約し、保護者が子どもの日々の成長をより身近に感じることができるようにする。また、保護者は子どもの状況についての質問や懸念をオンラインで直接伝えることができ、保育者はこれに迅速に対応できる。

②　定期的な面談やミーティングの実施

個別面談やグループミーティングの実施は、保育者と保護者の間での深い理解と信頼関係を築くのに役立つ。個別面談では、保育者が一人ひとりの子どもの発達状況、興味、振る舞いについて保護者に直接情報を提供し、保護者からの疑問や懸念に対応する。これは保護者にとって子どもの成長に関する重要な洞察を提供し、保育者にとっては保護者の期待やニーズを理解する機会となる。

また、グループミーティングは保護者が園の方針や予定されているイベントについて学び、他の保護者と経験を共有する場を提供する。これにより、保護者は園のコミュニティの一部としての所属感を感じ、保育者との関係も強化される。

③　コミュニケーションスキルの向上

保育者のコミュニケーションスキルを向上させるための研修は、効果的な対話と関係構築に不可欠である。この研修では、対人スキル、感情的知能、コンフリクト解決の技術など、保護者や子どもたちと

効果的にコミュニケーションを取るための様々な側面がカバーされる。保育者がこれらのスキルを習得することで、保護者や子どもたちとのより深い信頼関係を築くことができ、保護者からのフィードバックや懸念に対してより効果的に対応できるようになる。

④　フィードバックシステムの構築

フィードバックシステムの構築は、保護者が園のサービスや対応に対する意見や提案を気軽に共有できるようにするために重要である。これには、定期的なアンケートの実施、オンラインフォーラムの設置、メールやアプリを通じた直接のフィードバックチャネルの提供などが含まれる。保護者からのフィードバックを収集し、それを園のサービス改善に活用することで、保護者の満足度を高めることができる。

⑤　コミュニティの促進

園におけるコミュニティの促進は、保護者が積極的に園の活動に参加し、他の保護者や保育者との関係を深めるために重要である。これには、特別なイベント、親子活動、ワークショップの実施などが含まれる。これらの活動は、保護者が園の一員としての所属意識を持つことを促し、保育者との関係を強化することに貢献する。

参考文献・定義

※１）
中間的な論点の整理（保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会）2018（平成30）年9月26日・P3)

※２）
中間的な論点の整理（保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会）2018（平成30）年9月26日・P6)

※３）
坂本喜一郎、篠原菊紀、柳澤弘樹、竹内勝哉、井量昭(2014)「園児を取り巻く多様な物的環境と、子どもの身体活動量の関係に関する研究」

※４）
堀昌浩、柳澤弘樹、坂本喜一郎、竹内勝哉、井量昭(2015)「充実した保育環境を構築するための大切な条件の探求」

※５）
竹内勝哉、柳澤弘樹、堀昌浩、坂本喜一郎、井量昭(2017)「子どもの主体性を育む保育」関係に関する研究

※６）
自己効力感：「特定のことをうまくできるという自信」に関するもの

※７）
自己肯定感：「自分自身を価値あると感じること」に関するもの